

平成30年度 第 9 回教育委員会定例会

議決事項

件 名	提案理由	審議の状況	採決の次第
<p>報告第23号 平成30年度垂水市特別支援教育支援員の委嘱について</p>	<p>垂水市特別支援教育支援員の委嘱について、教育長の臨時代理により決定したこと、及びその内容について報告するものである。</p>	<p>特記事項なし</p>	
<p>議案第22号 平成31年度垂水市一般会計当初予算要求について</p>	<p>平成31年度当初予算案の作成について、教育委員会の意見を申し出ようとするものである。</p>	<p>特記事項なし</p>	<p>承 認</p>
<p>議案第23号 垂水市教育支援委員会答申について</p>	<p>垂水市教育支援委員会の答申を受けて、児童生徒の望ましい措置を決定しようとするものである。</p>	<p>特記事項なし</p>	<p>承 認</p>

平成30年度 第 9 回教育委員会定例会出席者

日時及び場所	出席者	
<p>平成30年12月10日（月）</p> <p>午後2時00分</p> <p>↓</p> <p>午後3時32分</p> <p>第2研修室</p>	<p>教育長 坂元 裕人</p> <p>教育委員 野村 繼治</p> <p>教育委員 田原 正人</p> <p>教育委員 葛迫 幸平</p> <p>教育委員 田之上 厚美</p>	<p>教育総務課長 紺屋 昭男</p> <p>学校教育課長 明石 浩久</p> <p>社会教育課長 野嶋 正人</p>

会 議 要 旨

1 開 会

定刻、定足数に達しており、平成30年度第9回教育委員会定例会を開会した。
議案第22号及び議案第23号は非公開で審議する旨、教育長から発議があり、全会一致で議決された。

2 平成30年度第8回定例会会議録の承認

承認

3 議 事

報告第23号 平成30年度垂水市特別支援教育支援員の委嘱について
議案第22号 平成31年度垂水市一般会計当初予算要求について
議案第23号 垂水市教育支援委員会答申について

4 その他

なし

5 委員並びに教育長及び課長報告

6 閉 会

議事内容等

3 議事	報告第 23 号
学校教育課長	平成30年度垂水市特別支援教育支援員の委嘱について 平成30年度垂水市特別支援教育支援員の委嘱について、教育長の臨時代理により決定したこと、及びその内容について報告した。
田原委員	この方は、支援員として勤務されるのははじめてか。
学校教育課長	そのとおりだ。
田原委員	わかった。
	議案第 22 号
	平成 31 年度垂水市一般会計当初予算要求について (非公開)
	議案第 23 号
	垂水市教育支援委員会答申について (非公開)
4 その他	なし
5 委員並びに教育長及び課長報告	委員並びに教育長及び課長報告
教育長	委員並びに教育長及び課長の報告に入る。
野村委員	<p>1. 「垂水市小・中学校合同音楽会について」 11月15日（木）垂水市小・中学校合同音楽会に出席した。58回目という大変長い歴史をもつ音楽発表会である。 今年度も牛根小学校から始まり、各学校の子どもたちは、みんな晴れの舞台上で緊張の中にも堂々としていた。 当日の教育長あいさつの中にもあったが、出場の皆さんは、この音楽会に向けて音楽の時間だけではなく、休み時間や放課後、また、自宅でのレッスンと、わずかな時間を惜しんで懸命に練習をしてきたのだろうと思った。ステージに立つ一人ひとりの胸を張った、はつらつとした姿にその練習の成果が十二分に発揮されていた。 また、垂水小学校、垂水中央中学校は、合唱のほかに金管バンドと吹奏楽部の発表を入れて、ステージを華やかに飾ってくれた。 特に感動を受けたのは、大規模の学校はもちろんだが、全校児童十数名</p>

	<p>から二十数名という5校の発表であった。1年生から6年生までしっかりとまとまった団結というか、心の絆というものを強く感じた。</p> <p>この合同音楽祭の意義は、最後の全体合唱の「翼をください」に集約されていると思った。子どもたちは真剣に、澄んだ瞳で力いっぱい歌い、その姿は一人ひとりの輝かしい未来に向けて、それぞれ各自の誓いを歌っているような、また、たくましい若者に成長するという、それぞれの将来を象徴しているのだと私自身、強く感じる事ができた。</p> <p>1. 「垂水市人権教育研修会について」</p> <p>11月21日（水）、垂水市人権教育研修会に参加した。かねての講義とは違い、隣同士で傷つく言葉や相手を思いやる言葉を掛け合ってみて、どんな気持ちができるのかを味わってみる体験型の講話で、なるほどと思わせる良い講話だった。</p> <p>最後のテロップで流れていた話は、とても感動的で身につまされる良い話であった。心のクリーニングをしてもらったひと時であった。</p> <p>2. 「教育懇談会について」</p> <p>11月28日（水）、教育懇談会に出席した。新しいスタイルの会であったが、校長先生方がプロジェクターを使った説明でわかりやすく、校長先生方の説明も上手であった。</p> <p>対象の校長先生だけでなく、すべての校長先生方が聞いてくださるので私たちがやりがいがあるし、すべての方々が共感し、共有できることが大変良かったと思った。</p> <p>3名の校長先生方の発表に対して、自分たちが均等にお答えできたか疑問ではあった。自分だけが時間を取り過ぎてはいけないので、来年は時間配分を考えて意見を述べていかなければと反省することだった。</p>
<p>田原委員</p>	<p>1. 「和田英作・和田香苗記念絵画コンクールについて」</p> <p>12月2日（日）、和田英作・和田香苗記念絵画コンクールの絵画の搬入日であった。</p> <p>この日は、垂水小学校の150周年記念式典や千本いちょう、大野原生き生き祭りと重なったこともあり、絵画コンクールの搬入場所である垂水市民館には多くの車が駐車していた。国道も車の往来が普段になく多く、にぎやかな垂水であった。</p> <p>コンクールの一般部門は、昨年を10点ほど上回る作品が届き関係者もほっとしていた。昨年同様に、県外作品や高校生の作品も多く出品されたことに展覧会の充実がうかがえた。ジュニア部門については、学校、園ごとに3日（月）の文化会館搬入であった。</p> <p>12月7日（金）は、和田英作・和田香苗記念絵画コンクールの審査日で、元垂水高校の教諭であった2名の審査委員に今年もお願いし、3名で審査にあたった。</p> <p>午前中の一般部門では、私のほうから冒頭で「今年も昨年同様87点ほどの入選受賞者を考えて審査をお願いします。」また、「県内、県外を問わ</p>

ず厳しい目をもって審査し、賞候補を挙げてください。」とお願いして審査を行った。

出品作品の中には、応募規程の範疇から逸脱した作品もあり、審査委員の先生方から注意を受けた。特に県外の出品作品については、郵送による作品が多く占めているために、搬入日での注意ができずにいたことも原因の一つだった。今後は応募規程の内容を確かめ、「出品者によくわかるような内容にすべきだなあ」と感じる事だった。

なお、高校生出品に垂水高校生の作品がなかったことは残念であった。今後は垂水高校に出品していただくようにアピールする必要もあるのではと思った。

本日12月10日がコンクールの審査結果の発表日で、最高賞には垂水市の鶴田公人さんがはじめて選ばれた。第5回目にして、やっと本市から最高賞が出たことで市民の皆さんも喜んでくれるのではないかと思う。

ジュニア部門については、垂水小学校が昨年を大きく上回った出品数ではなかったかと思うほど多く出品してくれた。

年々、子どもたちの図画作品の質の向上が感じられるが、特に垂水小学校は肝属地区の小中学校の中でも、いい位置にあり「楽しみな学校」という審査委員からのお褒めの言葉もいただいている。16日（日）から始まる展覧会が楽しみである。

田之上委員

1. 「垂水小学校創立150周年記念関係について」

12月2日（日）、創立記念式典の日に、学習発表会、記念式典、記念講演会、祝賀会と朝から夜まで盛りだくさんの一日であった。

午前中の学習発表会では、文化会館の大きな舞台上で子どもたちは、堂々と学習の成果を発揮していた。1年生は鹿児島弁を交えた発表で、3年生は民話調の話に歌を交えた発表で、機知に富んだものであったなあと思った。最後に発表した6年生も素晴らしく、終わりの言葉は創立150周年記念の年であることを意識して、「自分たちが伝統を引き継いでいるのだ」という意識が強く感じられるものであった。

今、頑張る垂水小学校の子どもたちの様子を見ながら、これからも更に素晴らしい伝統が積み重ねられていくであろうと思うことだった。

2. 「教育懇談会について」

11月28日（水）、教育懇談会に出席した。初めての出席で、緊張した会であった。

校長先生方から、学校の様子や学校自慢を話していただき、まだ学校の様子がよくわかっていない私には、短い時間の中でたくさんの情報をいただくことができた。

先生方が、子どもたち、職員の方々、そして地域を大切にされていることが感じられ、ますます頑張りたいと思うことだった。これから学校へ何うことがあると思うのが楽しみになったような気がした。

教育長

1. 「教育懇談会のまとめ等について」

教育懇談会について、校長先生方の取組については五つのキーワード(①こだわる、②関わる、③つなぐ、④広める、⑤守る)であったと思う。

教育懇談会を終えて、校長先生方からは「これまでの教育懇談会にはない、よい雰囲気であった。」「他校の特色やよさは知っているようで知らないことが多かった。参考になった。」「プレゼンも各学校の特色をうまく表現していた。動画も交え具体的で効果的であった。」という声があった。

私から校長先生方へは、PTA総会などいろいろな場面で活用を図って、大いに学校のPRをしてほしいと伝えたところである。

本日は、学校のPRに関わることとして、新聞にも掲載された「第20回南九州川辺青の俳句大会」で「県教育委員会賞」を受賞し、私もいい句だなあと考えた、境小学校6年生の俳句を紹介したい。

～「滝つぼの 青さに続く 遊歩道」～

この様な大きな賞を受賞することは、なかなか難しい。本人もすごく自信になったと思うが、学校、地域も元気をもらったのではないかと思った。

また、松ヶ崎小学校1年生の詩が同じく新聞に掲載されたり、協和小学校1年生の作文が「第68回全国小・中学校作文コンクール」でJR賞に輝いたりするなど、子どもたちが夢を持ちながら、各学校が頑張っていることが新聞に取り上げられるということをうれしく思った。

教育懇談会の冒頭、西都市教育委員会の方々が教育懇談会を拝見され、その感想が、社会教育課の報告文書の中に、以下のように書かれていた。

「小・中学校一貫の取組は、本市でも行っているけれども、横の連携を意識した、西都市にはない取組であり興味深かった。今後検討してみたい。」とあり、教育懇談会そのものを、関心を持って見ておられて、「いいなあ」と西都市教育長も本音でおっしゃっていた。

教育総務課長
学校教育課長
社会教育課長

11月13日から12月10日までの主な行事等について報告。
併せて、1月10日までの予定についてお知らせした。

6 閉 会